

DERWENT- 1986-017842

ACC-NO:

DERWENT- 198603

WEEK:

*COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD*

TITLE: Portable TV receiver with voice signal transmitter -  
transmits voice signals received by ear-phone device  
comprising RF receiver to eliminate plugging in of ear-  
phone NoAbstract Dwg 5/5

PRIORITY-DATA: 1984JP-0097896 (May 16, 1984)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 60241383 A	November 30, 1985	N/A	007	N/A

INT-CL (IPC): H04N005/60

ABSTRACTED-PUB-NO:

EQUIVALENT-ABSTRACTS:

Derwent Accession Number - NRAN (1):

1986-017842

Title - TIX (1):

Portable TV receiver with voice signal transmitter - transmits  
voice signals received by ear-phone device comprising RF receiver to  
eliminate plugging in of ear-phone NoAbstract Dwg 5/5

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭60-241383

⑬ Int.Cl.

H 04 N 5/60

識別記号

庁内整理番号

8220-5C

⑭ 公開 昭和60年(1985)11月30日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 携帯用テレビジョン受信機

⑯ 特 願 昭59-97896

⑰ 出 願 昭59(1984)5月16日

⑱ 発 明 者 入 江 三 千 夫 諏訪市大和3丁目3番5号 株式会社諏訪精工舎内

⑲ 出 願 人 株式会社諏訪精工舎 東京都新宿区西新宿2丁目4番1号

⑳ 代 理 人 弁理士 最 上 務

## 明 細 書

## 発明の名称

携帯用テレビジョン受信機

## 特許請求の範囲

(1) テレビジョン放送を受信し、映像信号並びに音声信号を再生する携帯用テレビジョン受信機において、前記音声信号を変調信号とする送信回路を内蔵し、微弱電波を発射する機能を有したことを特徴とする携帯用テレビジョン受信機。

(2) 携帯用テレビジョン受信機の送信回路より発射された電波を受信し、音声信号を再生する回路を内蔵したことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の携帯用テレビジョン受信機。

(3) ヘッドホンを用いてテレビジョン放送を視聴することを特徴とする特許請求の範囲第1項若しくは第2項記載の携帯用テレビジョン受信機。

## 発明の詳細な説明

(技術分野)

本発明は、携帯用テレビジョン受信機(以下ポケットTVと略す)並びにヘッドホンに関するものである。

(従来技術)

一般に、従来のポケットTVは第1図に示す構成から成っている。

第1図において、受信アンテナ1から入力されたテレビジョン信号は、一方で映像信号再生回路2において映像信号として出力され表示装置8において表示される。また、もう一方で音声信号再生回路4において音声信号として出力され、ヘッドホンの発音部5を駆動する。

第2図は従来のポケットTV及びヘッドホンを用いてテレビジョン放送を視聴する場合の概略図である。第2図において、6はポケットTV、7は受信アンテナ、8は映像表示装置であり、ポケットTV6で再生された音声信号は、ヘッドホン接続ジャック9及び接続コード10を通してヘッドホン11の発音部12を駆動する。

しかし、このような従来形のポケットTVにお

いては、ヘッドホンを用いて音声を聴取する場合その都度接続コードを接続ジャックにさし込まなければならずその操作は非常に面倒である。またポケットＴＶとヘッドホンが常に接続コードで結ばれているため、接続コードが体にかからみつくと不快感があったり、体の束縛感があったりする。さらに、ポケットＴＶを手を持つ場合でも、机に置いて操作する場合でも、ヘッドホンをかけている頭部との間隔が接続コードの長さで制約されるため、体を自由に動かす事が困難な場合がある。

#### (目的・概要)

本発明は、上記問題点を解決するためになされたものであり、ポケットＴＶ内部に音声信号を変調信号とする送信回路を設けて微弱電波を発射し一方、ヘッドホン内部には、上記送信回路より発射された電波を受信して音声信号を再生する回路を設け、コードを接続することなしに、ヘッドホンにおいて音声を聴取可能としたものである。従って、本発明のポケットＴＶ及びヘッドホンを用いてテレビジョン放送を視聴する場合には、接続

コードを接続ジャックにさし込む手間がいらない上、接続コードがないため接続コードが体にかからみつくと不快感もなく、束縛感もない。

また、自由に体を動かすことができる。なお、電波は、せいぜい１～２ｍ到達すれば良いため、免許の不要な微弱電波で良く、送信機の電力も微少なもので良い。

#### (実施例)

それでは、本発明について実施例を用いて説明する。第８図は、本発明にかかるポケットＴＶの一実施例を示す構成図で、第１図と対応する部分については同一符号で示した。第８図において、受信アンテナ１から入力されたテレビジョン信号は、一方で映像信号再生回路２において映像信号として出力され、表示装置８において表示される。また、もう一方で音声信号再生回路４において音声信号として出力され、この音声信号を変調信号として送信回路１３より被変調搬送波が出力され、送信アンテナ１４より電波として発射される。

第４図は、本発明にかかるヘッドホンの一実施

例を示す構成図である。第４図において、ポケットＴＶより発射された電波は、受信アンテナ１５で受信され、音声信号再生回路１６において音声信号として出力されヘッドホンの発音部５'が駆動される。

第５図は、本発明のポケットＴＶ及びヘッドホンを用いてテレビジョン放送を視聴する場合の概略図であり、第２図と対応する部分については同一符号で示した。第５図において、ポケットＴＶ６'の送信アンテナ１７より発射された、音声信号を変調信号とする電波はヘッドホン１１'の受信アンテナ１８で受信され、内蔵された音声信号再生回路１９で音声信号として出力され、発音部１２'が駆動される。

#### (発明の効果)

以上、詳細に説明したように、本発明のポケットＴＶ及びヘッドホンにおいては、ポケットＴＶ内部に音声信号を変調信号とする送信回路を設けて微弱電波を発射し、一方、ヘッドホン内部には、前記送信回路より発射された電波を受信して音声

信号を再生する回路を設け、接続コードを用いることなしに、ヘッドホンにおいて音声を聴取可能としたものである。従って、本発明のポケットＴＶ及びヘッドホンを用いてテレビジョン放送を視聴する場合には、接続コードを接続ジャックにさし込む手間がいらない上、接続コードがないため、接続コードが体にかからみつくと不快感もなく、束縛感もない。また自由に体を動かすことができるため、非常に快適にテレビジョン放送を視聴することができる。

なお、本発明において、音声信号の変調方式を周波数変調方式とし、搬送波の周波数を通常のＦＭ放送の周波数帯とすれば、本発明にかかる機能は全て満足される上、ヘッドホン自体は、単体で通常のＦＭラジオとして用いることが出来、非常に便利である。この場合には、搬送波の周波数を変更可能にして、一般の放送電波に妨害とならない周波数を選定するのは当然である。

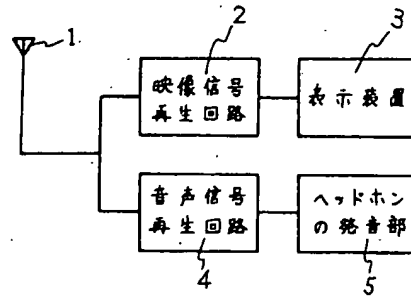
## 図面の簡単な説明

第1図は従来のポケットTVの構成図、第2図は従来のポケットTV及びヘッドホンを用いてテレビジョン放送を視聴する場合の概略図、第3図は本発明にかかるポケットTVの一実施例を示す構成図、第4図は本発明にかかるヘッドホンの一実施例を示す構成図、第5図は本発明のポケットTV(a)及びヘッドホン(b)を用いてテレビジョン放送を視聴する場合の概略図である。

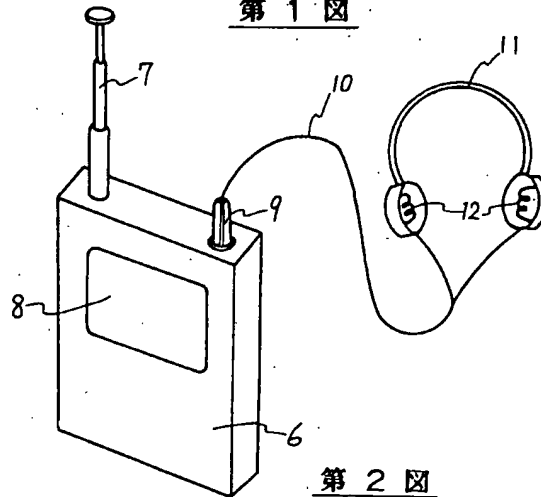
1. 7・・・ポケットTVの受信アンテナ, 2. 映像信号再生回路, 3. 表示装置, 4. 音声信号再生回路, 5. ヘッドホンの発音部, 6. ポケットTV, 7. ヘッドホン, 8. 送信回路, 9. 送信アンテナ, 10. ヘッドホンの受信アンテナ, 11. ヘッドホンの音声信号再生回路, 12. 送信回路, 13. 送信アンテナ, 14. ヘッドホンの受信アンテナ, 15. ヘッドホンの音声信号再生回路, 16. 送信回路, 17. 送信アンテナ, 18. ヘッドホンの受信アンテナ, 19. ヘッドホンの音声信号再生回路。

以 上

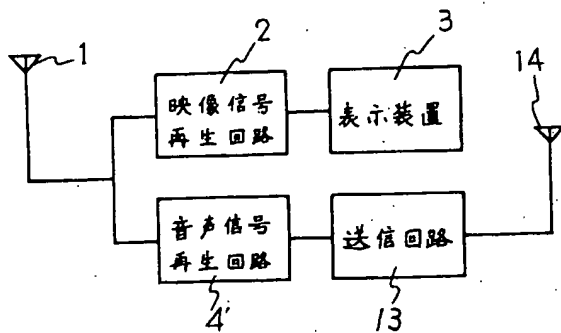
出願人 株式会社防衛精工舎  
代理人 弁理士 最 上 務



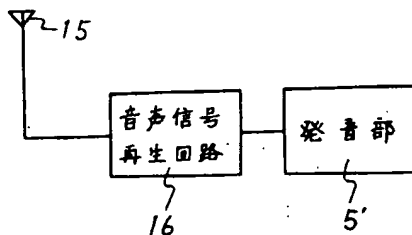
第 1 図



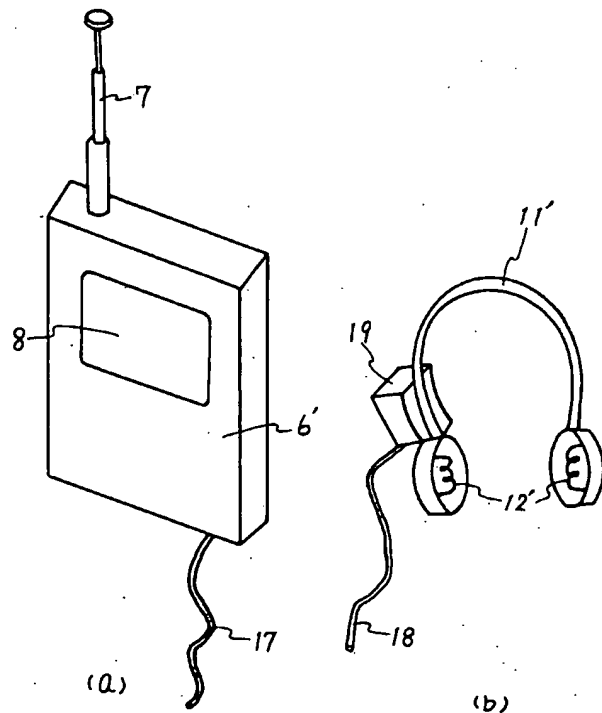
第 2 図



第 3 図



第 4 図



第 5 図